

1. 人員体制

(1) 診療放射線技師6名で業務を遂行し、主な業務は一般撮影、CT、MRI、骨密度測定、造影透視で、救急外来に対しても24時間の対応を行った。また健診においても胃透視、マンモグラフィ、腹部超音波検査などを行った。

2. 今年度の活動

(1) 放射線機器について

本年は老朽化に伴いX線透視装置、一般撮影装置、X線ポータブル装置、そしてMRI装置の更新を行った。故障に伴う装置の更新では、通常診療に影響が出ないことを最優先におこない、特に問題なく完了した。MRI装置の更新の際には1ヵ月近く検査を休止した。関係各所の協力もあり予定通りの日程で完了した。

(2) 技術連携について

済生会熊本病院中央放射線部と定期的に意見や情報の交換を行い、連携強化に努めてきた。特に診療に関する技術の面では研修などを通して、多くを習得することができ検査の質の向上につなげることができた。次年度も必要に応じた研修などを継続していく。

(3) 更新機器への対応

2021年度は多くの機器が更新された。それに伴い各プロトコルの設定やマニュアルなどにおいても適宜更新を行った。また操作に関しても各人が全て習得していく必要があり、随時行っている。

(4) 職場環境について

ストレスの少ない働きやすい部署を目指し、活発なコミュニケーションを心がけ、ワークライフバランスの充実を図った。突発的な休暇に関しても各員でフォローできるような体制、また教育を強化し連携して業務を遂行した。また有給休暇の取得や当直業務についても適宜検討をし、現況に適合したシステム作りを行った。

3. 今後の課題と展望

(1) 遠隔画像診断が7月より稼動開始した。1月に200件程度依頼が行われている。当院の医師と読影医との橋渡し役を確実に担い、当院の診療の質を上げることの一助となるように的確に実施していく。また読影レポートを参照したり、共有したりすることで当科の画像への知識向上を図っていきたい。

(2) 放射線に関する院内向け教育の実施

放射線被ばくや放射線検査に関する情報を院内へ発信し、放射線に関しての啓蒙や周知を行っていく。また研修会なども利用し放射線検査への知識を向上させ、より安心安全な検査を実施していく。

